

ニッポンランナーズ理事長 齊藤 太郎

◆地域スポーツクラブ設立

ニッポンランナーズの設立は2000年12月。同年9月末に女子実業団リクルートRCが休部となったことが契機でした。当時は2000年シドニー五輪金メダルの高橋尚子さんの「とても楽しい42・195kmでした」というコメントに、自分もその気持ちを共感してみたいと走り始めた方が多くいらしました。とは言え、まだランニングブームは到来していません。好きな時に走れるのに、会費を納めて習う人が居るのか？と揶揄されるほどでした。当時の佐倉朝日健康マラソンのエントリー数は4千人台です。市内を走られるランナーの多くは顔見知りでした。日頃挨拶を交わし、応援してくださるランナーがたくさんいました。そんな皆さんと共にファミリー感覚でマラソンに取り組める環境を作りたい。そんな思いから佐倉の地に地域スポーツクラブを立ち上げました。

仲間と走ることが習慣化すると、それぞれの生活に好循環が生まれました。苦しさ乗り越えた後の爽快感。身体疲労とは対照的に、頭はスッキリして仕事

がはかどる。大会日時が決まると、そこからカウントダウンがはじまり、家庭や仕事を整える。そんなやりくりが刺激となり、心の充実が結びつくようです。

走り出したきっかけは運動不足解消だったのが、いつしか仲間との交流や自己実現という目的に変化してしまうことも多くあります。年齢、性別、レベルの差が限定されず、ひとつの環境で取り組めるのは、マラソンならではの特徴と言えます。練習、大会、合宿など様々なスタイルで仲間と時間を共有できる生涯スポーツとしてのマラソン。地域クラブ設立によって、新しいコミュニティが生まれたのでした。

◆ランニングブーム

2007年に第1回東京マラソンが開催され、そこからランニングブームがエントリー数は2008年が8,987人、2009年は11,594人となり、以降は1万人超の規模となっています。市内を走るランナーも明らかに増えました。

笹川スポーツ財団の統計によると、「2018年のジョギング・ランニング実施率年1回以上」は9.3%、推計実施人口964万人」とされています。

おしゃれなウェアが充実し、街中のお店にもランニング姿で立ち寄ることがわりと自然に風景に馴染むような時代になりました。世の中のモードに変化が起きたのです。1992年のバルセロナ五輪銀メダル後、有森裕子さん擁するリクルートRCは活動拠点を佐倉市に移しました。続く1996年のアトランタ五輪でも有森さんは銅メダル獲得。2大会連続メダル獲得の快挙は周知の通りです。私が同チームにコーチとして佐倉に赴任したのが1998年です。その頃、プロ

宣言された有森さんは、拠点を米国コロラド州ボルダーに構えていました。印象深いのは「日本では、走ることが特別な目で見られてしまうけれども、ここでは走るの街のすばらしさをお話しされていたことです。時を経てボルダーと同じようなモードが日本、そして佐倉にもやってきたことになりました。」



印旛沼ほりをランニング(風車・佐倉マラソン30km地点)

◆3つの尺度、マラソン・佐倉の天地人(糸譜、看板)

何人ものメダリストと後継者を佐倉の地で育てた小出義雄監督の存在は絶対的です。昨年天国に召されました。私を含め多くの地元ランナーが「おはよう」元気になっているのかい」といつも笑顔で声

かけられた思い出を大切に走っています。それから、当クラブ創設者であり、マラソン解説でお馴染みの金哲彦氏は選手引退後、小出監督の下でコーチ業を学び、その後リクルートRC監督となりました。私はその金氏にコーチとして採用された師弟関係になります。

地(土壌、ハード)

マラソンの聖地、岩名運動公園には、『小出義雄記念陸上競技場(400Mトラック)』、着地衝撃が緩和され足にやさしいウッドチップ路面の『クロスカントリーコース(1・6km周回)』があり



佐倉城址公園(歴博)桜を愛でながらのランニング

ます。同公園発着の『金メダルジョギングコース』(尚子コース・裕子コース)は、1kmごとに距離表示があり、初めての方も道標に従って進める安全な舗装路コースです。他にも、印旛沼サイクリングロード、佐倉城址公園周辺、大佐倉・本佐倉城などがあり、地形と四季折々の景観を楽しみながら走ることができます。目的や気分に応じてこれほどのコースが選べる土地は、佐倉以外にはないのではないのでしょうか。

人(そこで生活するランナー)

佐倉朝日健康マラソンでは、クラブを挙げて「ペーサーランナー」と「給水所運営」の協力をさせていただいています。各地の大会に出場しているメンバーは、様々な応援、おもてなしの厚意を受けて

きました。心の支えになった幾つものアイデアが財産となっています。今度は佐倉までマラソンを走りいらした皆さまにぞうした恩を現役ランナーの目線から還元したい。ランナーがランナーの支えになることで自身の心が豊かになる。そんな姿勢で毎年関わらせていただいています。

Keep dreams and Hope salive(夢と希望)

小出義雄記念陸上競技場の碑に刻まれている言葉です。将来を夢見る子どもたち、アスリート、市民ランナー、健康志向や仲間とのふれあいを楽しみ走る方々まで、マラソンを通してそれぞれの夢と希望を持ちながら生活できる。佐倉にはそんな環境が整っています。



佐倉マラソン・大会公式ペースランナーたち

回	西暦	フル	10km	3km	合計
第01回	1982	1,607	1,175		2,782
第02回	1983	2,374	1,613		3,987
第03回	1984	3,387	1,541		4,928
第04回	1985	4,965	2,173		7,138
第05回	1986	5,445	2,084		7,529
第06回	1987	5,650	2,257		7,907
第07回	1988	5,069	2,264		7,333
第08回	1989	5,639	2,692		8,331
第09回	1990	5,387	2,420		7,807
第10回	1991	4,993	2,308		7,301
第11回	1992	4,718	2,458		7,176
第12回	1993	5,604	2,837		8,441
第13回	1994	5,605	2,827		8,432
第14回	1995	6,293	3,017		9,310
第15回	1996	5,966	3,049		9,015
第16回	1997	5,263	2,870		8,133
第17回	1998	4,256	2,646		6,902
第18回	1999	2,930	1,866		4,796
第19回	2000	3,362	1,973		5,335
第20回	2001	2,621	1,937		4,558
第21回	2002	2,844	1,926		4,770
第22回	2003	2,552	1,968		4,520
第23回	2004	2,415	1,765		4,180
第24回	2005	2,687	2,119	234	5,040
第25回	2006	2,749	2,295	338	5,382
第26回	2007	2,805	2,608	677	6,090
第27回	2008	4,463	3,586	938	8,987
第28回	2009	6,192	4,187	1215	11,594
第29回	2010	5,981	5,081	1344	12,406
第30回	2011	中止	中止	中止	中止
第31回	2012	6,498	4,865	1204	12,567
第32回	2013	6,711	4,741	1483	12,935
第33回	2014	6,752	4,849	1585	13,186
第34回	2015	6,576	4,560	1561	12,697
第35回	2016	7,096	4,158	1758	13,012
第36回	2017	7,289	4,041	1779	13,109
第37回	2018	6,994	3,715	1581	12,290
第38回	2019	7,423	3,932	1678	13,033
第39回	2020	7,177	4,054	1646	12,877

笹川スポーツ財団データ/https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/381/Default.aspx